栄冠は男子四中女子一中に！

中学バスケ秋季大会

令和3年度習志野市中学校秋季大会・バスケットボールの部が令和3年10月30日から11月14日まで、袖ケ浦体育館ほかで開かれた。

予選リーグ、決勝トーナメントが行われ、男子は四中、女子は一中が優勝を飾った。大会は令和3年度習志野市中学校新人体育大会の代替大会として催された。

大会結果は次の通り。

【男子の部】

▽予選Aリーグ

①二中②六中③三中④七中

▽予選Bリーグ

①四中②五中③一中④東邦中

◇決勝トーナメント

▽準決勝戦

五中 60（23－9、15－20、11－14、11－15）58 二中

四中 55（21－15、11－10、16－13、7－8）46 六中

▽決勝戦

四中 65（18－16、22－13、13－6、12－11）46 五中

①四中②五中③二中③六中

【女子の部】

▽予選Aリーグ

①一中②七中③三中④東邦中

▽予選Bリーグ

①四中②五中③二中④六中

◇決勝トーナメント

▽準決勝戦

一中 74（17－9、17－4、20－12、20－4）29 五中

四中 112（29－10、24－7、27－5、32－3）25 七中

▽決勝戦

一中 62（23－4、8－10、15－19、16－15）48 四中

①一中②四中③五中③七中

決勝戦戦評

男子決勝戦は五中と四中との顔合わせとなった。五中は全員、四中は4人が身長160㎝台のスタートメンバーで、四中のオフェンスから試合開始。四中は179㎝の鈴木をポストに置き積極的な攻撃。開始30秒前に稲岡が3ポイントを決め、先制点を挙げる。五中も1年生ガードの上村を中心に早いパス回しで攻め、竹迫が3ポイントを決め返す。その後、四中は確実なシュートで点を重ね、五中はシュートまでいけない時間が続く。四中はボールに対してのカバーが早くディフェンスが手厚い。四中のスキップパスを五中の髙木がカットし、速攻が決まる。バスケットカウントとなり、開始4分でようやく追加点。フリースローは外したが、オフェンスリバウンドを取り、もう一度攻めのチャンスを得て上村がさらに追加点を挙げ、五中ペースの試合展開となり、一進一退の攻防が続く中、四中12－11五中でタイムアップ。

第2クォーターは五中のオフェンスでスタート。四中のディフェンスに苦しみなかなかシュートまでいけない。四中も確実なプレーでシュートまで行くが決まらず、開始2分半でようやく四中が2点。五中は竹迫からのアシストで猪野がレイアップ、四中は池田のファールによって得たフリースロー2本目でようやく追加点。その後、四中はヴァイオレーション、五中はミスショットが多くなったが、四中の3ポイントが決まり、25－17と四中リードで前半を終える。

第3クォーターは四中ボールからスタートするが、ローポストでボールを受けた鈴木のトラベリングでシュートまでは行けず。五中は上村がボール運びから自らレイアップを決めて先制点。五中のファールが増え、四中はフリースローで確実に加点。インサイドの鈴木を上手く使い、高さを生かしたオフェンスでさらに点数を増やす。ここで五中が180㎝の1年生、堀内を投入。高さでの勝負に出た。しかし、四中の鈴木の技術が上回り、早々にファール。フリースローを与えてしまう。五中にとっては苦しい試合展開。その後も四中は鈴木を中心に確実に点差を広げていく。残り1分を切ったところで五中は堀内がゴール下を決めるが流れをつかめず47－30と四中がリードを広げる。

最終クォーターは五中のオフェンスでスタート。四中の高いディフェンスに楽なシュートを打たせてもらえず、四中の鈴木が先に得点。五中は髙木が3ポイントを決めるものの続かず、四中の鈴木を前に攻守ともになかなかリバウンドが取れない。このクォーターは互いにメンバーチェンジが多く行われた。どちらのチームも出てくる選手全員が積極的にシュートを狙う姿勢が見られた中で、五中は鈴木の3ポイントが決まるなど、着々と点差を縮めようとしていた。最後の数分は互いにミスやファールが重なった。五中はシュートの本数は多いがなかなか決まらず、65－46で四中が優勝を勝ち取った。

男子四中の西尾潤琉キャプテンは「新チーム初の大会に向けて、チームプレーを意識して、練習に励んできました。勝ちたいという強い気持ちと、仲間を信じてプレーしたことで優勝することができてうれしかったです。コロナ禍にもかかわらず、秋季大会を開催していただいた大会関係者や先生たちに感謝の気持ちでいっぱいです。次の大会も優勝目指してがんばります」と話した。

女子決勝戦はともに予選リーグを全勝で勝ち上がってきた一中と四中との対戦となった。第1クォーター、互いにオールコートマンツーマンでスタート。一中は岩瀬のドライブ、熊倉の3ポイントで得点を重ねる。四中も大日方のドライブ、大西の3ポイントで応戦するも、その後の得点が奪えない。残り2分8秒、一中は岩瀬から一木への合わせが決まったところで一中14－8四中とし、四中がタイムアウト。タイムアウト後、四中が積極的にトラップを仕掛けると、2分間で佐々木の3ポイントと大西の6得点を含む2－10のランで、一中16－15四中と1点差に迫って第1クォーターを終了する。第2クォーター、何度もリバウンドやルーズボールに食らいつく四中が、大西のフリースロー、佐々木の速攻で残り2分53秒には一中22－26四中と逆転に成功する。しかし、一中も茂利のリバウンドからのバスケットボールカウント、出川のドライブで一中29－26四中と再逆転し逃さない。一進一退の攻防が続き、一中31－34四中で四中3点リードで前半は終了した。

後半の立ち上がりは、両者のディフェンスが得点につながらず、残り4分まで3－2と重たい展開が続く。互いに決め切れない中、リングに果敢にドライブを繰り返す四中。特に大西が2本連続でバスケットボールカウントを決める。一中39－44四中と四中がリードを5点に広げて最終クォーターに突入する。

最終第4クォーター、一中は熊倉のリバウンドショットを皮切りに、一木、岩瀬が得点を重ねて、残り6分までに一気に8点を連取して逆転に成功する。さらに出川が3ポイントを立て続けに2本成功させて53－46と突き放す。残り3分、四中はダブルチームを仕掛けてボールを奪いに行くが、なかなか得点を奪うことができずに62－48でタイムアップ。最終クォーターのシュート成功率が明暗を分ける形となり、一中が勝利した。

女子一中の熊倉奈美子キャプテンは「新チームとして、初めて臨む公式戦となった今大会は『絶対に優勝する！』という強い気持ちでチーム一丸となって、戦い抜きました。激しいディフェンスから、自分たちの攻撃のリズムを作り、最後まで仲間を信じて、これまでの練習で積み上げてきたチームプレーを粘り強く発揮することができたので、優勝につながったと思います。今大会の経験を糧にして成長し、進化し続けるチームを目指して、練習に励んでいきます」と語った。

（戦評・習志野市小中学校体育連盟バスケットボール専門部）

男子優勝の四中

女子優勝の一中

FRIENDS優勝

袖ケ浦ソフトボール

後期は交流戦を実施

袖ケ浦ソフトボール連盟の最終戦と今年度優勝チームの表彰式が令和3年11月28日、袖ケ浦運動公園で開かれた。

リーグ戦は一昨年に続いて行うことができず、代わりに前期トーナメント戦としてレギュラー各チームによるトーナメント戦とシニアチームのリーグ戦を3日間の日程で開催。FRIENDSが前期優勝を果たした。

連盟では後期トーナメント戦と前期と後期の優勝チーム同士のチャンピオン戦を予定していた。しかし、新型コロナウイルス感染症の拡大によって後期の間にはトーナメント戦などが実施できず、1日限りの交流戦が企画された。

交流戦には8チームが参加した。最終第4試合ではFRIENDSとFDソフトボールクラブが対戦。通期優勝となったFRIENDSが2－1で勝利し、有終の美を飾った。

優勝のFRIENDSと胴上げされる鈴木一郎監督㊧